

● 診療科の特色

当院は国の政策医療としての成育医療の基幹病院であり、一般小児病棟は50床を有し、新生児病棟の50床と併せて100床の小児病棟を擁し、子ども病院に準ずる扱いで、岡山県内で唯一、国立成育医療センターをtopとする小児総合医療施設協議会に加盟を許されています。

小児科では高度専門医療と救急医療を2本柱として、あらゆる小児内科疾患に対応すべき体制を24時間整えています。年間新入院患者数は一般小児科だけで約2,000名であり、救急センターの年間受診者数は時間外選定療養費を徴収しているにも拘らず約7,000名で、救急での入院率は20～30%と非常に高率です。専門領域は多岐にわたります。内分泌領域では、成長ホルモン治療患者数は中四国1を誇っています。また、岡山市内で唯一小児の透析治療を担っており小児腎移植の術前術後に関わっています。その他、感染性疾患はもちろんのこと、アレルギー疾患、神経疾患、代謝疾患等を重点的にカバーしています。特に2020年度にはCOVID-19の流行もあり小児患者・小児濃厚接触者の入院治療に携わってきました。心臓疾患に関しては岡山大学から毎週、また小児整形に関しても旭川荘療育医療センターから毎月専門医が派遣されています。従って、臨床研修において、専門性の高い疾患から急性疾患に至るまで、その数、内容共に十分な症例を供給できます。また、教育にも力を入れており、月・水・金に入退院カンファがあり、木曜日には小児外科・新生児科と合同のカンファがあり、ここでは症例発表及びスタッフによるshort lectureがあります。更に抄読会・輪読会やフィルムカンファなども若手中心に行われています。週1回早朝に多職種による救急トレーニングも開催しています。岡山大学や他大学からの医学生実習も受け入れています。一方、定期的にセミオープン全国規模の救急研修会や成育研修会を開催しており、また当科主催で、県内若手勤務医のための勉強会も年2回開催していましたがCOVID-19の流行後にはwebカンファレンスの開催を試みています。もう一つ当院の特徴的なものとして臨床研究部の存在があります。当科は成育医療推進研究室に属しており、臨床研究を行うことができると共に、研究予算が得られます。

このように、臨床研修だけでなく、臨床研究に至るまで幅広い研修を受けることが可能です。国立病院機構ネットワークを通じて内地留学や、国外留学制度も取り入れています。後期研修においては年間約400名の新入院症例を有する新生児科と約800の手術件数を誇る小児外科における研修も含まれます。

● 入院診療実績

1. 2020年度 小児科疾患別一覧	ICD-10	患者数	死亡患者数
感染症および寄生虫症	A00-B99	93	0
新生物	C00-D48	8	0
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-D89	13	0
内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	130	0
精神および行動の障害	F00-F99	11	0
神経系の疾患	G00-G99	116	1
眼および付属器の疾患	H00-H59	3	0
耳および乳様突起の疾患	H60-H95	3	0

循環器系の疾患	I00-I99	4	0
呼吸器系の疾患	J00-J99	193	0
消化器系の疾患	K00-K93	35	1
皮膚および皮下組織の疾患	L00-L99	20	0
筋骨格系および結合組織の疾患	M00-M99	53	0
腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	85	0
周産期に発生した病態	P00-P96	1	0
先天性奇形, 変形および染色体異常	Q00-Q99	15	0
症状, 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	55	0
損傷, 中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	100	0
原因不明の新たな疾患	U00-U79	20	0
総計		958	2

2. 特殊検査法	症例数	合併症の有無とその内容	死亡退院数
1 心エコー	1,059	なし	0
2 腎生検	6	なし	0
3 下垂体機能検査	75	なし	0
4 脳波	720	なし	0
5 経口負荷試験(食物アレルギー)	入院 62	なし	0
6 経口負荷試験(食物アレルギー)	外来 120	なし	0

3. 特殊治療法	症例数	処置合併症とその内容	長期予後
酵素補充療法	11	特記事項無し	QOL の向上、延命効果
在宅腹膜透析	4	特記事項無し	QOL の向上、延命効果
在宅酸素療法	36	肺炎	QOL の向上、延命効果
栄養指導療法(外来)	80	特記事項無し	経口摂取制限解除
アレルギー児への予防接種	20	特記事項無し	
在宅人工呼吸器	24	特記事項無し	QOL の向上、延命効果

4. 教育・研修	開催頻度		開催頻度
入退院カンファランス	3 回/週	合同カンファランス	1 回/週
部長・医長回診	2 回/週	輪読会	1 回/週
抄読会	1 回/週	レントゲンカンファランス	1 回/2 週
PALS に準じた多職種シミュレーション	1 回/週	レジデント症例検討会	1 回/2 週

● 研究業績

1. 論文発表

- 1) 高張性脱水を伴う急性腎前性腎不全に引き続き、横紋筋融解症、DIC を合併した一例
村上美智子、清水順也、難波貴弘、浦田奈生子、井上拓志、久保俊英
日本小児腎不全学会雑誌 40 199-202 2020年7月31日
- 2) 発熱・腹痛の主訴から肺膿瘍と診断し、治療経過の評価に超音波検査が有用だった1小児例
服部真理子、清水順也、藤永祥子、高橋亨平、浦山建治、樋口洋介、片山寿夫、木村健秀、古城真秀子、金谷誠久、白神浩史、久保俊英
医療 74 8,9 369-373 2020年8月20日
- 3) 新生児期早期よりケトンフォーミュラの経管栄養を行っているピルビン酸脱水素酵素複合体(PDHC)欠損症の2小児例の臨床像
古城真秀子、井上拓志、竹内章人、中村信、影山操、木下真幸子
特殊ミルク情報 56 28-32 2021年2月21日

2. 学会、研究会

- 1) 急性膀胱炎を合併した、PD 管理中の OFD-1 異常の男児例
土屋弘樹(退職)、清水順也、他
第55回日本小児腎臓病学会学術集会 2021年1月8日
- 2) 非ステロイド系抗炎症剤の変更により臨床症状の変化をきたした I 型バーター症候群の小児例
川崎綾子、清水順也
第25回岡山小児腎雑談会 2020年11月11日
- 3) ファブリー病早期診断の重要性
古城真秀子
御津医師会学術講演会 2021年2月16日
- 4) A case of levetiracetam-responsive posttraumatic West syndrome
井上拓志
ISDEE 2020 Virtual Meeting 2020年6月19日
- 5) 深層学習を用いた骨年齢判定の試み
樋口洋介
第123回日本小児科学会学術集会 2020年8月21日
- 6) 深層学習モデルによる日本人小児骨年齢評価
樋口洋介
第93回日本内分泌学会学術集会 2020年6月4日
- 7) 肺血管内皮細胞を用いたインフルエンザ重症肺炎モデルの構築と high mobility group box 1 抗体による肺血管透過性亢進の抑制効果
難波 貴弘
第61回日本臨床ウイルス学会 2020年10月3日
- 8) 重症な貧血により輸血を要した Infantile Pyknocytosis の1例

難波 貴弘

第 72 回 中国四国小児科学会

2020 年 11 月 28 日

3. 講演

1) 岡山てんかんオンラインカンファレンス

井上 拓志

TKP ガーデンシティ岡

2020 年 9 月 30 日

2) ライソゾーム病研究会 in Kurashiki

古城 真秀子

倉敷ロイヤルアートホテル

2020 年 11 月 13 日

3) 第 72 回中国四国小児科学会共催セミナー

古城 真秀子

広島県医師会館

2020 年 11 月 29 日